

北朝鮮の核問題と六者協議の常設機構化

李鍾元（立教大学）

1. 六者協議「共同声明」(9・19)の特徴
 - 1) 予想以上の「成果」: 第2次核危機(2003年1月～)の解消への「土台」
 - 2) 「包括性」: 問題と手段の包括的な枠組み
 - 3) 「連携性」: 諸メカニズム(南北・米朝・日朝)の連携・連動
 - 4) 「段階的アプローチ」: 「約束対約束」/ 「行動対行動」
2. 「共同声明」の内容・構造
 - 1) 第1項(目標): 「朝鮮半島の非核化」
「すべての核兵器及び既存の核計画の放棄」/ 「NPT・IAEAへの復帰」
米国の「不可侵・不攻撃」の約束/ 朝鮮半島非核化宣言(1992)の再確認
「平和的利用の権利」の尊重/ 「軽水炉提供問題の議論」
 - 2) 第2項(関係正常化)
米朝: 主権尊重/ 「平和的に共存」/ 国交正常化
日朝: 平壤宣言の再確認/ 「不幸な過去」「懸案事項」の解決/ 国交正常化
 - 3) 第3項(「見返り」と経済協力)
「エネルギー、貿易および投資の分野における、二国間又は多国間の経済協力」
5カ国によるエネルギー支援/ 韓国の電力供給
 - 4) 第4項(地域安全保障協力体制)
「北東アジア地域の永続的な平和と安定のための共同の努力」
「朝鮮半島の恒久的な平和体制」
「北東アジア地域の安全保障協力の促進方策の探求」
 - 5) 第5項(方法論)
「約束対約束、行動対行動」の原則/ 「段階的に実施」/ 「調整された措置」
3. 背景: 米朝の「戦略的決定」
 - 1) 北朝鮮: 中国の支援と関与/ 対米・日・韓の同時進行
 - 2) 米国: ネオコンの退潮/ 難題・内政の負担と優先順位/ 東アジア戦略の再構築
ライス国務長官(補佐官)の「六者協議の常設化」打診
4. 第5回会談第1段階会合(11月9日～11日)
 - 1) 後退?: 次回日程の未定/ 「金融制裁の解除」対「原子炉の稼働中止」
 - 2) 突破口?: 別途の米朝交渉チャンネル開始
 - 3) 「議長声明」: 「信頼構築を通して、共同声明の履行」
「各部門でのすべての公約を実践し、適時に調整された方法で開始し、終了」
5. 北朝鮮の核問題と北東アジアの「脱冷戦」「脱地政学」
 - 1) 冷戦期の擬似システムから、「脱冷戦」「相互依存」の地域秩序形成へのプロセス
 - 2) ヘルシンキ・プロセス(CSCEプロセス)とヨーロッパ冷戦の終結
ヘルシンキ宣言(1975): 「安全保障」「経済協力」「人道協力」
 - 3) 「共通の安全保障」common security
相互抑止 mutual deterrence から相互安心 mutual reassurance へ
信頼醸成措置 CBMs/ 「現状維持」から「現状変化」への逆説
 - 4) 北朝鮮の核問題への対応から、古い「地政学的な対立」の克服へ